

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600312		
法人名	有限会社ハタ介護ステーション		
事業所名	グループホーム我が家		
所在地	帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・高齢にともない声を出して笑う事は少なくなると思うが我が家では声の出る笑いのある毎日をなじみの関係のもとで、利用者・スタッフ共に笑顔で過ごせる所が我が家の良い所です。</p> <p>・体調変化危険性については常に全スタッフにより情報交換し、検討し即対応している。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600312-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600312-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年3月4日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>中規模都市の市街地に所在するこの事業所では、開設以降の年月の経過と共に入居者の高齢化や重度化が進んできていくが、管理者はじめオープニングスタッフによる熱意と「家族主義」という基本理念を掲げたなかでのケアの実践のもとで、笑顔や活気がみなぎる事業所である。管理者は長年介護事業に携わり、豊富な経験と知識を持ち、独自の観点から利用者の個人の尊厳やその人らしい生き方に関しての理論を持っている。「家族主義」という言葉を持って職員を指導しており、自ら利用者と関わり職員の目標になるように研鑽している姿から、現在までの事業所の充実や発展がなされたことが伺える。その中で、地域的に町内会との交流などには課題がみられるが、事業所の近隣住民との交流や日常的に地域からの介護相談に応じることなど、努力していることが伺える。事業所内がアットホームで家庭的な様子は、今後更なる支援の充実について大きく期待が持てる事業所である。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングやホーム内研修を通じて、家族主義を基本として人間関係及び生活環境のもとでの生活の場が「我が家」であり、その理念の中で日々の暮らしを進めている(全職員)	事業所では「家族主義」を理念の基本的な考えとして、日常の中で自然と相手を思う気持ちを培えるようなケアの実践を職員に周知し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し個々に応じた行動に参加や散歩等において声をかけあったり、災害時の連絡と避難場所として両隣お向いの方と助け合ったり、取り決めて交流を行っている。	事業所と地域は近隣の住宅を中心として日常的に、交流や必要に応じて健康や介護についての相談を受けるなど、関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員や高齢者の相談やその家族の見学や認知症の対応等の相談を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己及び外部評価等の報告及び取組など全般において助言、要望をサービス向上に活かしている。	事業所では定期的に運営推進会議を開催し、サービスの質の向上につながるような議事を検討し、開かれた事業所を目指し、各種意見交換や報告を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密に努めている。	介護認定や給付管理に関わる事柄について日常的に確認を行うなど、必要に応じて連携がなされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者の指示がなければ如何なる状況であろうと絶対に行わない事が原則として全職員に徹底している。日中は常に開放しており、夜間のみ施錠する。	身体拘束を行わないケアの実践に向けて、管理者は日常的に職員と話し合いの機会や学習機会を設けて指導や助言を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にあってはならない事であり、全職員が理解し徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し合いにおいて、必要な方に活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会等において利用者及び家族の意見・要望・助言など委員として参加しており、常に運営に反映している。	面会時や家族へ電話連絡を行った際に、意見や要望を伺うようにしている。また運営に関する意見が表出された場合は、運営推進会議などにおいても協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや園内研修において十分に各自自由に意見を述べ訴え等、聞き入れる雰囲気が自然に作られ反映している。	ミーティングや研修会などにおいて、職員からは意見を表出できるように工夫を行い、会議において意見具申は平等に扱うことについて採用時から周知伝達を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者からの報告や意見に聞き入れ、働きやすい環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を中心にホーム内外の研修機会の計画を立ててトレーニングをしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に地域の同業者と交流を持ち、訪問や勉強会等の活動に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談等は常に訪問活動にて本人自身求めている事、不安な事を聞く機会を何度でも訪問して受け入れ安心を確保するために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談等は常に訪問活動にて家族が困っている事、不安な事において何度でも訪問し受け入れ安心確保に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が本人・家族と相談の上で支援を見極め合意にて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は(日常的に行っている)一人々との生活の場として共に歩み、一人一人のすべてを知り理解し、信頼関係のもとで安心感のある支え合う関係を築き、これを基本において進めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が一体となって本人にとって、より良い生活の場を送る事に常に共有し合って進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いをもとに家族や知人の理解のもとで対応している。	事業所では通院時などに馴染みの場所を通過するような路線を選択し、入居以前の生活を忘れないような工夫を行っている。面会や外出支援など、状態に合わせて支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的にスタッフは利用者同士が関わり合う事の橋渡し役にたって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が訪問したり、相談を受けたり関係維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の状態や生活特性ライフスタイル等の暮らし方を理解し、出来るだけ利用者本位の思いを大切にしたい対応を行っている。	管理者は利用者にとって何を行うべきかを常に考えるように職員に指導を行い、利用者自身の立場になって必要なサービスや希望を把握するように日常的に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の一人一人の対話や家族知人等により過去の生活歴、生活環境等の情報を把握し、取り入れながら個々に応じてケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の精神的、身体的の状況や能力に理解し、現状にそくしたケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者を中心に毎日のミーティング、ホーム内研修にて日常的变化に随時及び定期的に見直し対応を行っており、その都度本人及び家族との話し合いの結果を個々計画に反映し作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを専用チェックシートを用いて実施し、利用者の状態変化を把握しサービスの不足について検討や意見交換が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化に応じて個々のケース記録に記入し、全職員が共有し合い介護計画の見直しに対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームのみの機能において全力で行っているが多様性を活かす面については今後検討して行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて対応を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	早期発見、早期治療を基本とし利用者個々において、それぞれの主治医のもとで日常の健康管理に医療活用(定期、随時通院及び往診)の協力を得ている。	主治医の指示に基づいて、受診支援を家族と共同で実施している。利用者の状態変化について常に配慮を行い、早期発見による早期受診、治療につながるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の看護職(運営推進委員)との協力のもとで日常の健康管理や協力医療機関の指導協力にて対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との理解協力のもとで入退院の期間や回復等における情報や治療状況についての説明を受け、常に対応を共有して対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医、ホーム側の事前の協議において「できること」「できないこと」を見極め、その都度家族、主治医と共に連携して重度他や終末期のケアの対応を行っている。	事業所では利用者自身、家族の希望に沿って重度化及び終末期への対応を主治医と協議を行い対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員にマニュアルを配布し、ミーティングやホーム内研修等において研鑽を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員にマニュアル等を配し、ミーティングやホーム内研修に研鑽し、定期的に避難訓練を行っている。又、地域の協力のもとで避難場所を協力している。	消防署よりの立会、地域住民の参加のもとで防災訓練が定期的開催されている。職員には防災マニュアルを配布し訓練の他に研修会を開催し、有事への備えを行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的なケアにおいて常に利用者からの安心感を大切に意識的な対応を行っている。	事業所では利用者と職員の信頼関係の形成に「家族主義」を原点と考え、個人の尊厳を遵守するように日常的に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアにおいて利用者一人一人に合ったかわりを理解し、常に意識して対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースを保てるよう常に工夫し本人の求めを大切にケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人の求めに応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の好みを把握に努め、食事は勿論行事・外食等の献立には伝えて職員と利用者が個々の能力に応じて準備や後片付けを行っている。	食事の時間帯は食事に集中できるように、会話を行わないようにしている。新聞チラシを見ながら献立を考える等、食事を楽しむ工夫がなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立を基に、食事や水分補給の声掛けは最適なチェックを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて食事後のハミガキ、ウガイ、入れ歯の清掃など常時行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを個々に行なっていて個々のパターンを把握し、必要に応じて声掛けや誘導を日中夜間共に行っている。	事業所では現在オムツ使用の利用者はおらず、定時の誘導や行動を観察し随時誘導を行い、排泄自立に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排泄チェックを行っており、毎日の水分補給や服薬運動等に個々の能力に応じて声掛けや誘導を進めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の個々の状態に応じて入浴介護のもとで会話を中心にくつろぎの雰囲気のもとで行っている。	利用者の希望に沿って週2回程度の入浴機会を確保し、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の状態、その時の状況に応じて寝る準備や安眠の声掛け等によって対応を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者の個々の服薬について内容等を理解し準備区分見届を常時行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、散歩、買物、日向ぼっこ等、外出や日常的に利用者の自発性のもとで生活面のお手伝い、清掃、洗濯干したたみ、オシボリ等の役割や楽しみを気晴らしに個々の求めに応じて行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価					
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人の協力のもとで個々の自発性に応じてドライブ、散歩、買物など個々の希望にそって行っている。			近郊にドライブや散歩を行い、外出機会を確保したり、100円ショップへの買い物など閉じこもりが起きないように工夫がみられる。					
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の能力に応じて家族本人の理解のもとで対応している。			/			/		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の個々の能力や希望に応じて、その都度支援を行っている。			/			/		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的家庭で使用している物品や装飾を使用し生活感の雰囲気を感じさせる工夫等で対応している。			共用空間は、利用者が日常的に落ち着いて活用ができるように馴染みの家具類をおいている。共用空間では「おやつ」や「体操」の時間に利用者が集まる場所となり、相互交流の場面として活用されている。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に長イス等を用意し、居場所確保に努めている。			/			/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々に応じて自分の家、自分の自由な生活の場に合う環境の完備に対応を行っている。			入居時に、利用者自身と家族で馴染みの家具や家電製品を持ち込み、落ち着いた空間になるように配慮がなされている。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープや廊下、便所、浴室などに手すりや床面はバリアフリー、トイレの案内(夜光性)など安全と自立にむけ常に工夫し部屋の入口には写真入りの名札で表札を明示、目のつく所に時計・日めくり等配置し自立に向けた対応を行っている。			/			/		